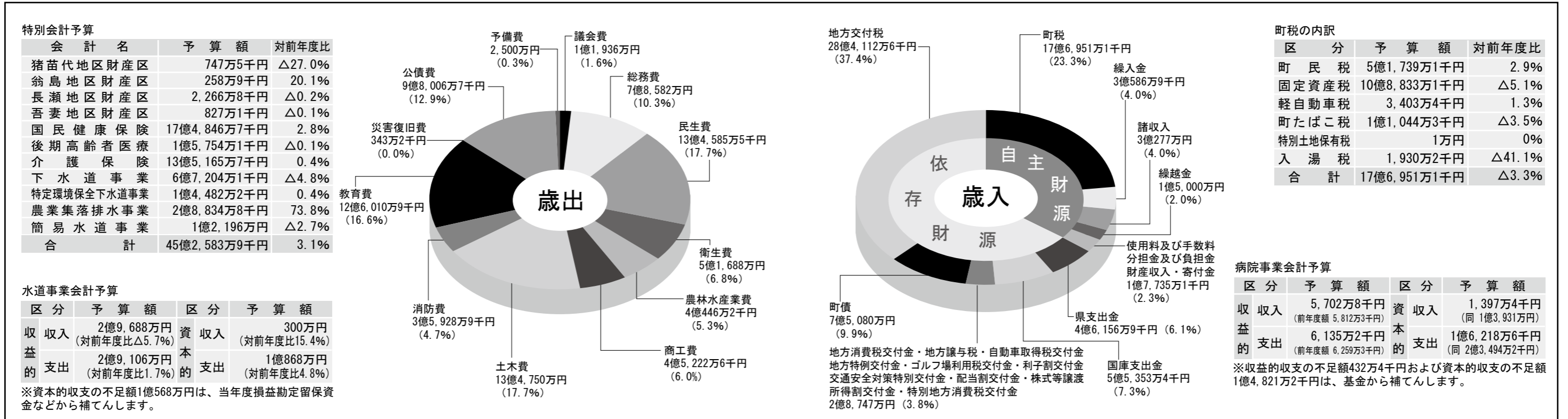


一般会計予算は 合わせて76 億円



一般会計

歳入

歳入は大きく「自主財源」と「依存財源」の二つに分けられます。

「自主財源」とは、町が自主的に確保することができる財源のことです。町の主要な財源の一つである町税をはじめとして、使用料、手数料、分担金、負担金や財産収入などが挙げられます。

一般会計の主要な財源の一つである町税は17億6951万1千円(前年度比6063万2千円の減)で歳入全体の23・3%を占めています(内訳は上の表のとおり)。このほか、財政調整基金などからの繰入金が3億586万9千円(前年度比2億4537万1千円の増)、雑収入などの諸収入が3億277万円、前

「依存財源」とは、国や県から交付される財源のことです。

地方交付税、国庫支出金、県支出金、町債などが挙げられます。

依存財源では、全体の37・4%を占める地方交付税が、28億4112万6千円(前年度比4467万6千円の増)。町債は、陸上競技場全天候型改修事業などを見込み、7億5080万円となりました(前年度比3710万円の増)。町債の借入れに当たっては、交付税措置のある有利なものを選ぶなど、負担が軽減できるように努めました。国・県の負担金、補助金や地方消費税交付金など、依存財源の合計は48億9449万9千円となり歳入全体の64・4%を占めています。

一般会計

歳出

歳出では、厳しい財政状況の中、限られた財源の効率的な活用に努めます。行財政改革の推進により事務事業を徹底的に見直し、経費の節減・合理化を進める一方、重点施策を選別して編成しました。

歳出の17・7%を占める土木費は、町道や町営住宅の整備・管理、除雪などに使われる費用で、13億4750万円(前年度比2億274万4千円の増)となっています。

これに続くのが、社会福祉や児童福祉などに使われる民生費です。全体の17・7%、13億4585万5千円(前年度比2億5451万5千円の減)を占めています。

その次に続くのが、幼稚園、小・中学校、生涯学習やスポーツ振興などに使われる教育費で、全体の16・6%、予算額は12億6010万9千円(前年度比2億9125万6千円の増)。

以下、借入金償還のための公債費が、全体の12・9%、9億8006万7千円(前年

度比3112万円の減)。町の全般的な管理などに使われる総務費が全体の10・3%、7億8582万円(前年度比1757万5千円の減)。衛生費は5億1688万円(前年度比7675万5千円の増)。商工費は4億5222万6千円(前年度比8887万4千円の増)。農林水産業費が4億446万2千円(前年度比6229万7千円の増)など続き、消防費は3億5928万9千円(前年度比1652万8千円の増)。議会費は1億1936万円(前年度比214万4千円の減)となっています。

24年度の主な事業

本年度中に実施する主な事業を紹介します。

- ▽陸上競技場全天候型改修事業 2億8731万3千円
- ▽都市公園(ふるさと歴史館)整備事業費 2億7936万5千円
- ▽社会資本整備総合交付金事業費 8663万1千円
- ▽放射線対策事業費 5416万9千円